

報告番号	※甲	第	号
------	----	---	---

主論文の要旨

論文題目

看護における哲学的プラグマティズムの意義：
立場の異なるプラグマティストの比較から

氏名

眞弓 尚也

論文内容の要旨

目的

プラグマティズムは、19世紀末にパースによってアメリカで創始された比較的新しい哲学の伝統である。プラグマティズムは論者によって大きな相違点が見られ、一つの統一された思想体系としてみることは困難である。したがって、プラグマティズムは看護学の研究パラダイムとして「不明確」あるいは「未発達」とみなされることがある。しかしながら、プラグマティズムは、真理の本質や知識の正当化など、近年議論されている問題を先取りしていたと認められ、哲学界で幅広い関心を集めている。

以上の背景を踏まえ、本論文では四人の著名なプラグマティストを取り上げ、彼らの共通点と多様性を概観し、彼らの考えが看護学のこれまで議論にどのようにかかわりうるかを考察することを目的とした。

四人のプラグマティスト

パースは、あらゆる探究は我々の見方の背景にある偏見から始まると主張する。しかしそれにもかかわらず、我々は集団として十分な経験的事実を集め、確かな推論を行うことで真の結論に導かれると彼は考えた。

ジェームズは、パースと同様に、人間としての信念や実践を離れて真理という概念を検討することは不可能であるという同じ哲学的前提に立っていた。しかし、ジェームズは、善であることと真であることを同一視し、真理は個人の幸福や満足のための道具であるから、真理は複数存在しうると主張した。

より現代的なプラグマティストであるローティは、正確な表象や真理の客観的な基準はなく、我々は各自が属する文化から物事を判断せざるを得ないとした。その結果、「客観性」という考え方は「強制されない合意」という考え方に置き換える必要があるとした。

同じく現代のプラグマティストであるハークは、我々が共有する信念は部分的には社会的構成物ではあることを認めるが、ローティとは異なり、我々の知識は誤りやすく不完全ではあるが、ある程度客観的な真理を把握しうると考えた。

四人のプラグマティストとの相違点と共通点

パースとハークは实在論を支持し、ジェームズとローティはそうではない。实在論は知識の客観性の問題と関連があり、前者が客観的知識は可能であると主張する一方で、後者は否定的である。看護学を科学として捉えるならば、前者の立場を擁護することが望まれるであろう。しかし、看護における質的研究の意義や、他者の意見も積極的に認めようとする倫理的含意に注目するならば、ジェームズやローティの意見も注目に値する。

以上のような大きな違いはあるものの、四人のプラグマティストは、形而上学を否定し、代わりに我々がすでに持っている信念や実践から探究を始めることを求める自然主義に基づいているという共通点がある。自然主義からは、理論を実践から生じさせ、信念を経験に結びつけることが求められる。このような提案は、看護理論が臨床実践から乖離することを防ぎ、理論と実践の間のギャップを埋めることにつながるだろう。

パースとハークのプラグマティズムの意義

近年看護学で注目されている哲学的理論として、バスカールによるクリティカル・リアリズムがある。パースのプラグマティズムは、实在論を支持していること、リトロダクション（アブダクション）を提案していることなど、クリティカル・リアリズムと類似点が多い。

キクチとシモンズによって提唱されている「穏健な实在論」は、看護哲学者による实在論としてしばしば参照されている。この考え方は、明らかにパースやハークが採用した「常識的实在論」の考え方に沿っている。

ハークによるエビデンス論からは、「正当化の一貫性理論」が支持される。正当化の一貫性理論とは、ある理論は、観察との整合性だけでなく、他の理論との整合性によって正当化されるという考え方である。このことは看護学の独自性の問題と関連がある。看護学が独立した学問分野であるために独自の知識体系を持たなければならないとする立場は否定され、看護学の正当性は他の学問分野の知見によってより強化されることになる。

ジェームズとローティのプラグマティズムの意義

ローティのプラグマティズムは、客観と主観、事実と価値の区別を曖昧にし、科学の客観性の特権的地位を奪おうとするため、質的研究の理論的基盤を与えるかもしれない。また、彼の哲学は、「客観性」の代わりに「強制されない合意」を推奨するため、できる限り多くの提案や議論に耳を傾けることを求めるという倫理的含意がある。

ジェームズもローティと同様、客観性を否定し、真理を個人的なものとするため、真理は一つではなく、複数の真理が存在するとした。このことは、異なる背景を持つ個々の患者の状況を改善することに関心を持つ看護師にとって示唆的である。

認識論的相対主義とは、何を知識とみなすか、あるいは信念が正当かを定める規範は、概念や文化の枠組みによって変化するという主張である。このような相対主義を擁護するためにプラグマティズムを採用する看護研究者たちがいる。彼らはプラグマティストとして、ジェームズやローティを引用することが多い。しかし、このことが看護におけるプラグマティズムの偏った見方につながる可能性がある。

プラグマティズムとミックスメソッド研究

看護学分野ではミックスメソッド研究が盛んであるが、ミックスメソッド研究の基盤となる哲学として、クリティカル・リアリズムを主張する研究者がいる。しかし、プラグマティズムとクリティカル・リアリズムの間にはいくつかの共通点がみられる。また、プラグマティストは、認識論的、存在論的な哲学議論よりも方法論重視のアプローチを採用する。これは、一種

の問題志向アプローチとみなすことができ、知識の臨床的価値を強調する看護のスタンスと一致する。看護学においてプラグマティズムはミックスメソッド研究法を正当化する哲学としては優勢ではないが、以上の点に着目するならばプラグマティズムの考え方を生かすことができるだろう。

結論

本研究では、四人のプラグマティストの思想を概観し、その共通点と相違点を分析した。パースとハークは客観的真理が存在するとし、实在論者の立場をとる。これに対して、ジェームズとローティは、客観的な真理を得ることは不可能であるとした。したがって、プラグマティズムをよりよく理解するためには、両方の立場を参照する必要がある。一方、四人に共通するのは、経験に基づかない形而上学を否定し、我々の理論を我々の実践から生じさせることを求める自然主義である。この自然主義の経験主義的志向は、看護における理論と実践の間のギャップを埋めるのに役立つと思われる。

また、これまで看護学において論じられてきた認識論的相対主義、实在論、ミックスメソッド研究法などを参照しながら、プラグマティズムを考察した。これにより、看護学の諸問題に対してプラグマティズムが多くの示唆を提出しうることを明らかにした。しかしながら、看護関連の文献からはジェームズやローティ流のプラグマティズムが優勢であることが伺える。その結果、プラグマティズムの伝統に対する一面的な理解が促進される可能性がある。プラグマティズムに関心を持つ哲学者、特に实在論と客観性を擁護しようとする哲学者は、パースとハークを研究すべきであると提言する。